学校番号	1301

令和８年度　家庭科

教科	家庭	科目	ライフデザインⅠ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

自立に向けて日常生活に関心をもち、積極的に取り組みましょう。
・家庭基礎で学んだ食生活、保育、環境・SDGs などについて、より実践的・体験的に学びます。
・実践的・体験的な学習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身につけます。
・自分の生活と関連付け、よりよい生活をめざします。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
人の一生と家族・家庭及び福祉,食生活、保育、環境・SDGs などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、保育、食生活、環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
ステージ1	保育	保育 ・命をはぐくむ ・子どもの育つ力を知る ・胎児・乳幼児の発達 ・子どもと家庭 ・子どもと生活 ・子どもと関わる ・子どもとの触れ合いから学ぶ ・これからの保育環境	保育 a:子どもの権利や福祉について、法律や制度などの情報を収集・整理することができる。 子どもの発達に家庭生活が果たす役割の重要性を理解している。 子どもを取り巻く環境の整備や社会全体での子育て支援の重要性を理解している。 b:実践的・体験的な活動を通して、保育に関心を持ち、学習に取り組もうとする。 c:親の役割や子どもを産み育てる意義、子どもを取り巻く環境の変化や課題について、考えてまとめたり、発表したりしている。	・テスト ・ワークシート	・テスト ・ワークシート ・レポート	・授業観察 ・自己評価 ・発表
ステージ2	食生活	食事と健康 ・食生活の課題を考える。 ・食事と栄養・食品 ・栄養素 ・家族の栄養 ・献立作成 ・食生活の課題 ・食料自給 ・食品と調理 ・食品の特徴 ・調理の基本 ・食品の選択と安全 ・生涯の健康を見通した食事計画 ・調理の基礎 ・食生活の文化と知恵 ・これからの食生活	a:主体的に食生活を営むために必要な知識を身につけ、食事が健康と深く関わっていることを理解する。食中毒や社会における食の安全について理解する。食品の栄養的特質、調理上の性質について科学的に理解している。資源に配慮した食品の購入、調理、保存などについて理解している。行事食、郷土料理、伝統的食品の食文化とその背景について理解する。 b: 自分や家族の食生活について関心を持ち、食事調査、献立実習などに科学的な視点からの考察を行うことができる。 c: 自分の食生活を振り返り、食生活の傾向と問題点について考え、まとめたり、発表したりしている。食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を活用し、経済、能率、嗜好を踏まえた献立を考え、工夫できる。	・確認テスト ・ワークシート	・確認テスト ・ワークシート ・レポート	・授業観察 ・自己評価 ・発表

ステージ3	環境	環境 ・持続可能な社会を目指して ・SDGs ・一人一人の力で社会を動かす ・消費生活と環境とのかかわり ・消費行動と環境 ・環境負荷の少ない生活への取組 ・環境を守る生活の工夫	a:環境に配慮した消費行動に必要な情報を収集・整理することができる。 大量生産、大量消費、大量廃棄型社会の見直しの必要性を理解している。 b:自己のライフスタイルや生活資源の有効利用の視点から将来の生活設計について考えようとしている。 c:自己のライフスタイルの実現を目指して、生活設計を考え、まとめ、発表したりしている。	・確認テスト ・ワークシート	・確認テスト ・ワークシート ・レポート	・授業観察 ・自己評価 ・発表

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度